



皆様の「快適な暮らし」のヒントに

すまい造りメール

第269号 2024年8月号

SINCE 2002.4.1.

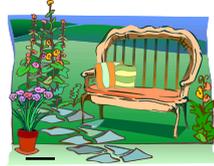
発行日令和6年7月31日
発行元有限会社佐野工務店
〒237-0068
横須賀市追浜本町1-25
TEL 046(865)4010
FAX 046(865)6139
http://www.sano-knet/
info@sano-knet

♪My little hometown「鷹取川の整備」



龍が握っている玉は、思いや願いが叶う神聖な玉（如意宝珠）と言われています。感謝の気持ちを忘れず自分なりのドラゴンボールを探しに行きましょう。

♪つかもうぜ! DRAGONBALL



鷹取山を主な水源とする鷹取川は、鷹取中学校付近を通り追浜南町を抜けて追浜町側の銀座通りを流れる鷹取川（男川）と、追浜小学校付近を通り鷹取町を抜けて追浜本町側の銀座通りを流れる関の入川（女川）の二つの川が、銀座通りの中ほどで合流します。かつては、鷹取山で採石した鷹取石の運搬手段として盛んに利用されていましたが、関東大震災で川底が隆起し、運搬船の航行ができなくなったことなどから利用されなくなりました。戦後に川の上に建設された架台や建物が老朽化したことから水面使用を解消し、それらを撤去し、水害に強い安全な市街地を目指す計画があります。地域懇談会では、「鷹取川に沿って遊歩道を整備してほしい」「大岡川のように船上から桜を見たい」といった要望がありましたが、それには、まず、鷹取川にゴミを捨てることなく、ひとりひとりが綺麗に保つことが大切です。

(参考資料「追浜駅周辺地区ランドデザイン」)



8月6日(火) 13:00開演
入場券 1,000円
みんなで楽しむコンサート 2024
横須賀市文化会館大ホール

皆様のご愛顧、ご愛読に感謝申し上げます
創業 1960.1.20. Next100
創刊 2002.4.1.

平成6年の新築工事以来、外装、住宅設備のメンテナンスなどを担当させていただいているお住まいを紹介させていただきます。

今回は2階の和室を洋間にリフォームしたいというご要望です。床は畳を撤去して廊下との段差を調整してフラットにして、壁と天井はクロスを貼り替え、押入は収納しやすいクローゼットにしました。

「前略 おせわ様。その後いかがお過ごしですか。」

「コートや洋服が収納しやすくなりました。和風モダンな旅館のような仕上がりが気に入ってます」

という感想をいただきました。



「劇的な」リフォームではないかも知れませんが、ピフォアー、アフター、さらにそのアフターまでお手伝いさせていただきます。

このたびの「令和6年能登半島地震」で被災された皆様に心よりお見舞い申し上げます。皆様の安全と、一日も早い終息、復興をお祈り申し上げます。

ローカルニュース 地域情報

◆生きるって、なに？
たかのてるこさんの講演会が10月5日(土)みなとみらいのはまぎんホールで開催されます。14:30開演(13:30開場)このイベントは神奈川県社会福祉会自殺対策委員会が主催する「心の健康★スペシャル講演会」で事前予約が必要ですが入場は無料です。

生きるって、なに？
一冊書か どんなんも
ごん食べてうんこして寝て 夢を繰り返すつ
思い出を作り替ってあげよう！
人と比べて自分をイジメず 自分を好きになろう♪

10月5日(土) 14:30~(13:30開場)
会場：みなとみらいのはまぎんホール(入場無料)

「世界中の人と仲良くなれる!」と信じ、7大陸70カ国を駆けめぐり、その旅の経験をもとに「生きてるだけでめっちゃ頑張っている自分をほめちぎって、愛いっぱい生きよう!」と語りかけます。



シリーズ累計22万部突破
文・写真 たかのてるこ



横須賀ストーリーズ(自然災害と防災訓練「阪神淡路大震災」2) <15>

阪神淡路大震災は想像を絶する自然災害で、全国からの支援によって復旧活動が行われました。横須賀市からも多数の職員を派遣しました。そして、その派遣も長期に及ぶことになり、派遣職員の激励と現地の被害状況の調査などのために2月8日から10日まで神戸市を訪問しました。

(1) 給水活動

最初に視察したのは水道局の派遣チームでした。神戸市からの要請で神戸市の西部地区復旧活動のために垂水センターを拠点として活動していました。駐車場には各都道府県、市などの給水車が所狭しと並んでいました。センターの副所長の話では、この地域では市内でも比較的被害が少なく、水道の断水も応援に来ていただいた自治体の力をお借りして万全の対策をとることが出来て感謝していますとのことでした。派遣した職員に被災現場を案内して貰い、給水管の接続などについては横須賀での方式と異なっており、神戸方式を学ぶことが出来たとのことでした。今後の大災害への対応を考えると給水技術の標準、マニュアル化の必要性を考えさせられました。同時に横須賀市内の幹線についても耐震化についての調査、検討を考えさせられました。

(2) 医療活動

医療救援チームは、神戸市の要請で神戸市須磨保健所の一室を利用して、その対応に当たっていました。神戸市からの派遣要請のあったときに、医療関係者だけではなく、インフルエンザワクチン等の医薬品も持参してほしいとのことでした。出発前に準備をしていたのが大いに役に立ちました。このチームに参加した職員は、近隣に宿泊施設がなく、事前に神戸市からの情報で寝袋（シュラフザック）を持参して、港に停泊中のフェリーボートが宿泊所として利用することになりました。応援に入った垂水区よりも隣接している須磨区の方が震源地に近く建物被害も大きく、医療の中核となっていた市民病院も大きな被害を受け、利用不能な状況でした。須磨保健所長の話によりますと、今では各市の応援態勢も整えられ所内も落ち着きを取り戻し、対応も順調に進んでるとのことです。地震発生の当日の混乱ぶりが信じられないとのことでした。しかし、今でも被災者の一部が保健所内の事務所などの生活していて、長期化する避難生活とインフルエンザを中心とする感染症と精神的な衝撃を受けた患者へのカウンセリングを継続しなければならないであろうとのことでした。

(元横須賀市助役 井上吉隆)



よこすか文学館【104】



三浦半島に点在する文学碑や史的記念碑を実見し、作者やその作品の成立事情、碑の現状などについてご紹介します。

いわのほうめい
<岩野泡鳴詩碑(平和中央公園)>

【詩】

岩野泡鳴（1873-1920）は兵庫県淡路島生まれ。明治、大正期の文学者で、文学史的には自然主義の小説家として著名ですが、詩人、劇作家、評論家としても活躍しました。筆名の泡鳴は生地の「阿波（泡）の鳴戸」のもじりです。碑の詩「田戸の海ぬし」は、1905年刊行の第3詩集『悲恋悲歌』収載された、7聯からなる七七調の詩で、碑文はその第1聯。第2聯以降には、「田戸の海ぬし」とは、「浦の人々」から「うやまひ懼（おそ）れ」られていた老漁師「猪ノ助」のあだ名で、彼は時代遅れの「ちよん髷（まげ）」を結っており、妻は「龍宮のいたづら小僧」と笑っていたことなどが描かれています。

田戸の海ぬし
田戸に山崎、また堀の内、
走り水にも、また大津にも、
春のうしほは朝ゆふ寄せて、
けむる霞の奥より見ゆる、
淡き猿島、島とは云へど、
田戸のおやちが巢にこそ似たれ。

(洗足学園中学高等学校教諭 中島正二)



お問い合わせ

住まいに関する皆様の疑問や質問、お知らせしたいことや情報などがございましたら、ご連絡ください。郵送の停止を希望される場合や、バックナンバーを希望される場合など、ご遠慮なく、お申し出ください。

尚、ホームページより「すまい造りメール」創刊号からのバックナンバーをはじめ、追浜周辺の地図「Oppamap 2024」A-9歩ZONE版（永久保存版）を（Blog「Oppamap2023」より）ダウンロードすることができますので、是非ご活用ください。

皆様の「快適な暮らし」のヒントになることができましたら幸いです。

〒237-0068 神奈川県横須賀市追浜本町1-25 有限会社佐野工務店
TEL 046(865)4010 FAX 046(865)6139

すまい造り

検索